



花淺州十社文集

五

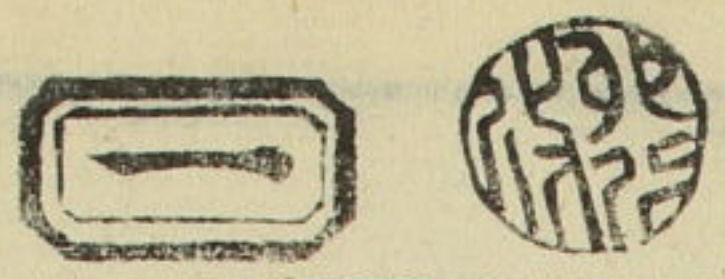
^ 13  
3723  
5



門 213  
號 3723  
卷 5

七之五 春風伝

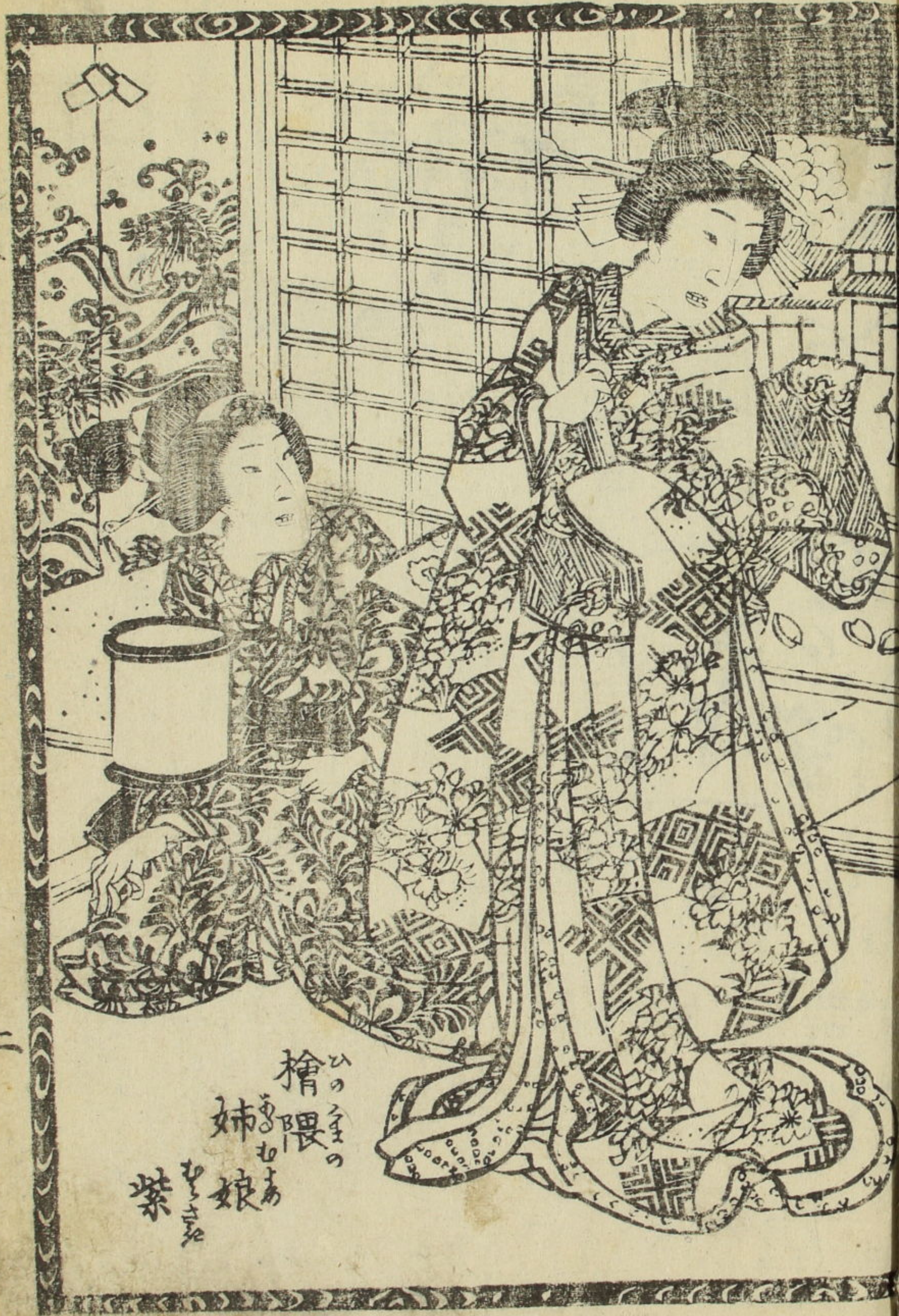
福澤



水の流と人の行方知る物壁ふり水の流地國老も分り果ハ必  
み入知る人の行方老時々の天命み徒ハ恐らく天道様も末々も  
有まし人の老余著述初編ハ初編後編の案トつけねバとの巻  
その真砂が化鳥小摺まるりつと墮り誰が救ふ今うらハ次  
ま行川の絶老ハ本の水み非ホと方又記の書出トを  
作者め目のつけ処昔老姫の洗濯せし流是ふ二ツハた物との  
水みあふる新奇さくて人も見ぬねどりつとみゆりの荷が過て水の流  
み治ても重くて動くぬ筆の掉汗み沾場由愁歎場由水より味の淡  
其泣涙が深川へあちて中汲見り人もとと五行み取て五編ハ水み當  
とハ序文の水みよせて

柳亭種彦

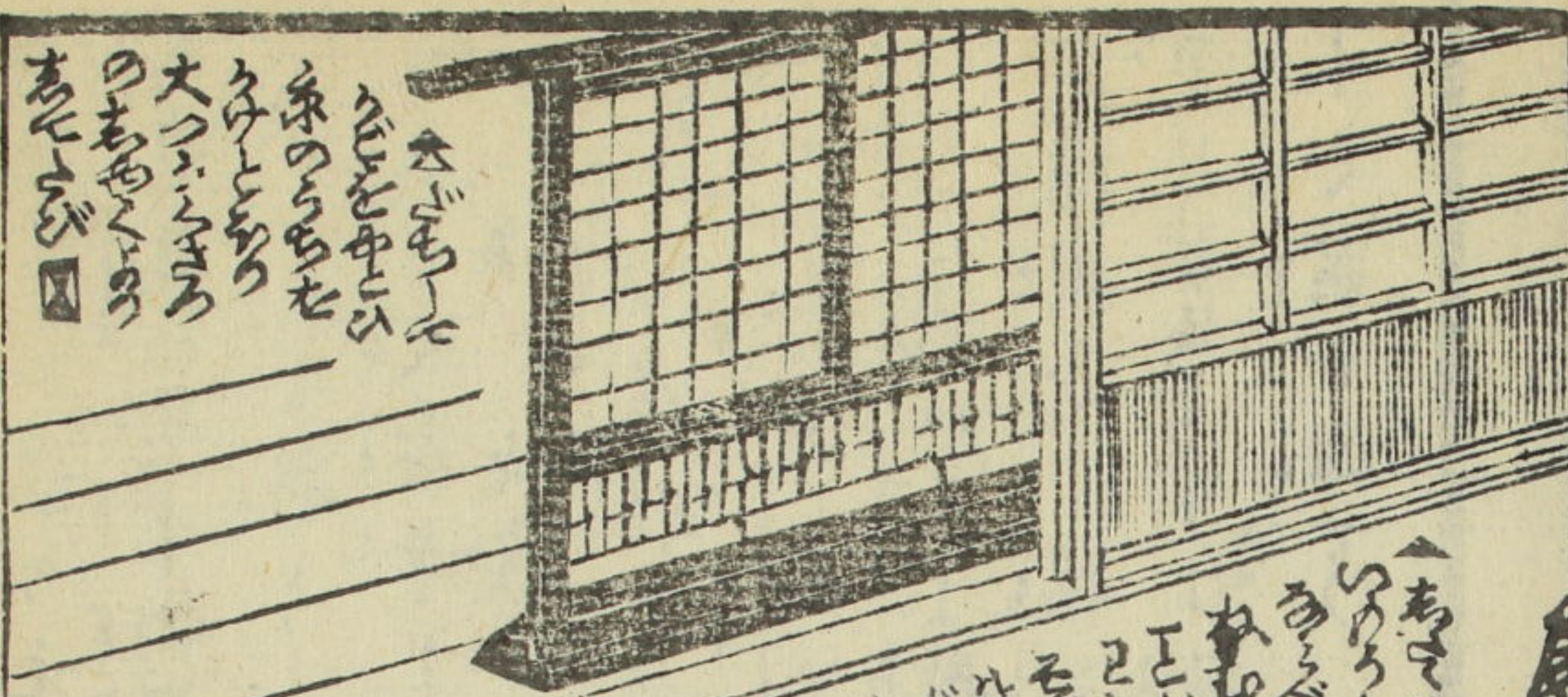
銭



檜隈の  
 姉嬢  
 紫



五條家  
 長臣  
 伏見  
 之  
 進  
 弟  
 之  
 助



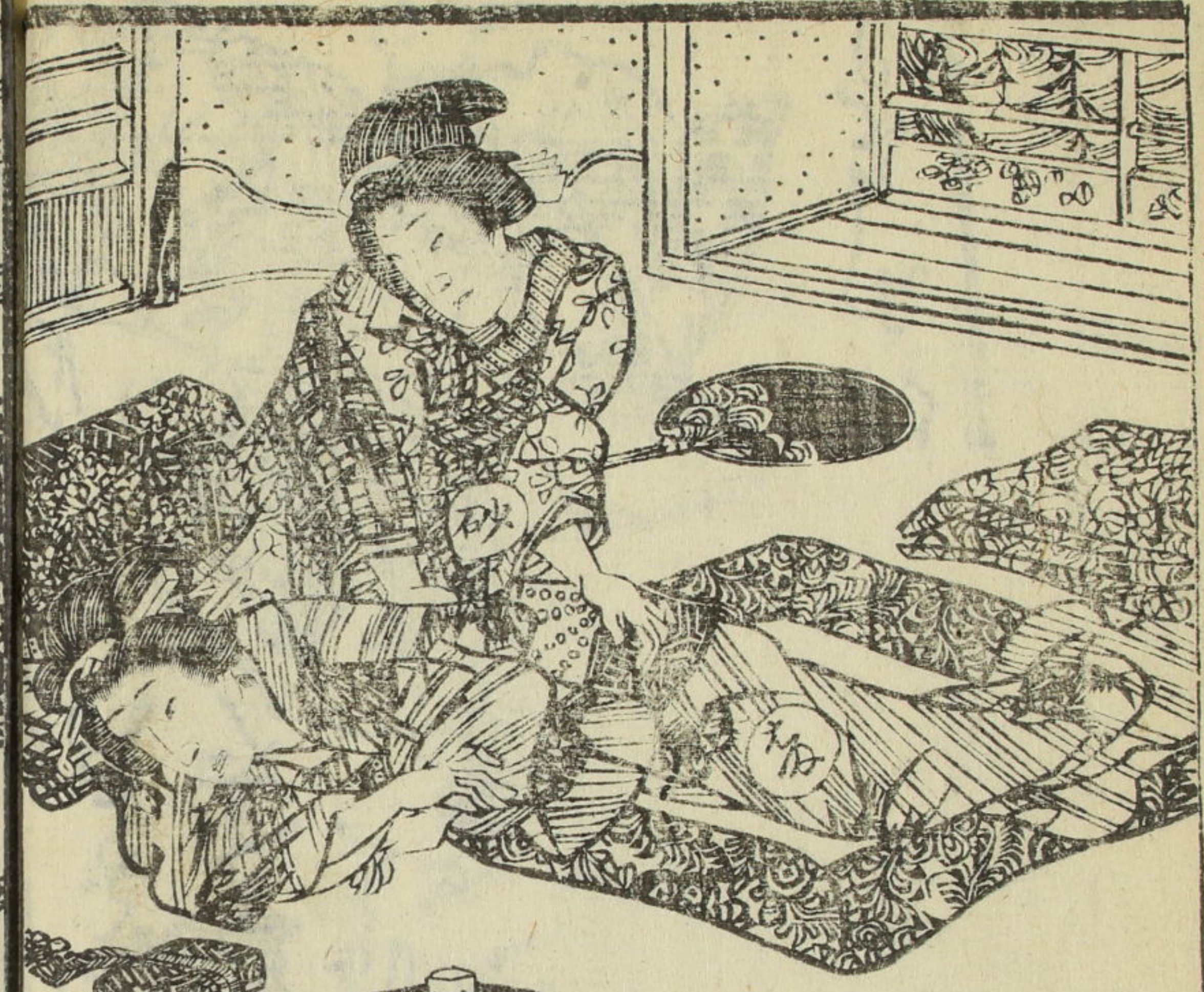
大いなる  
 糸のちり  
 大つらなる  
 のちり  
 大いなる

大いなる  
 糸のちり  
 大つらなる  
 のちり  
 大いなる



大いなる  
 糸のちり  
 大つらなる  
 のちり  
 大いなる

大いなる  
 糸のちり  
 大つらなる  
 のちり  
 大いなる



大いなる  
 糸のちり  
 大つらなる  
 のちり  
 大いなる







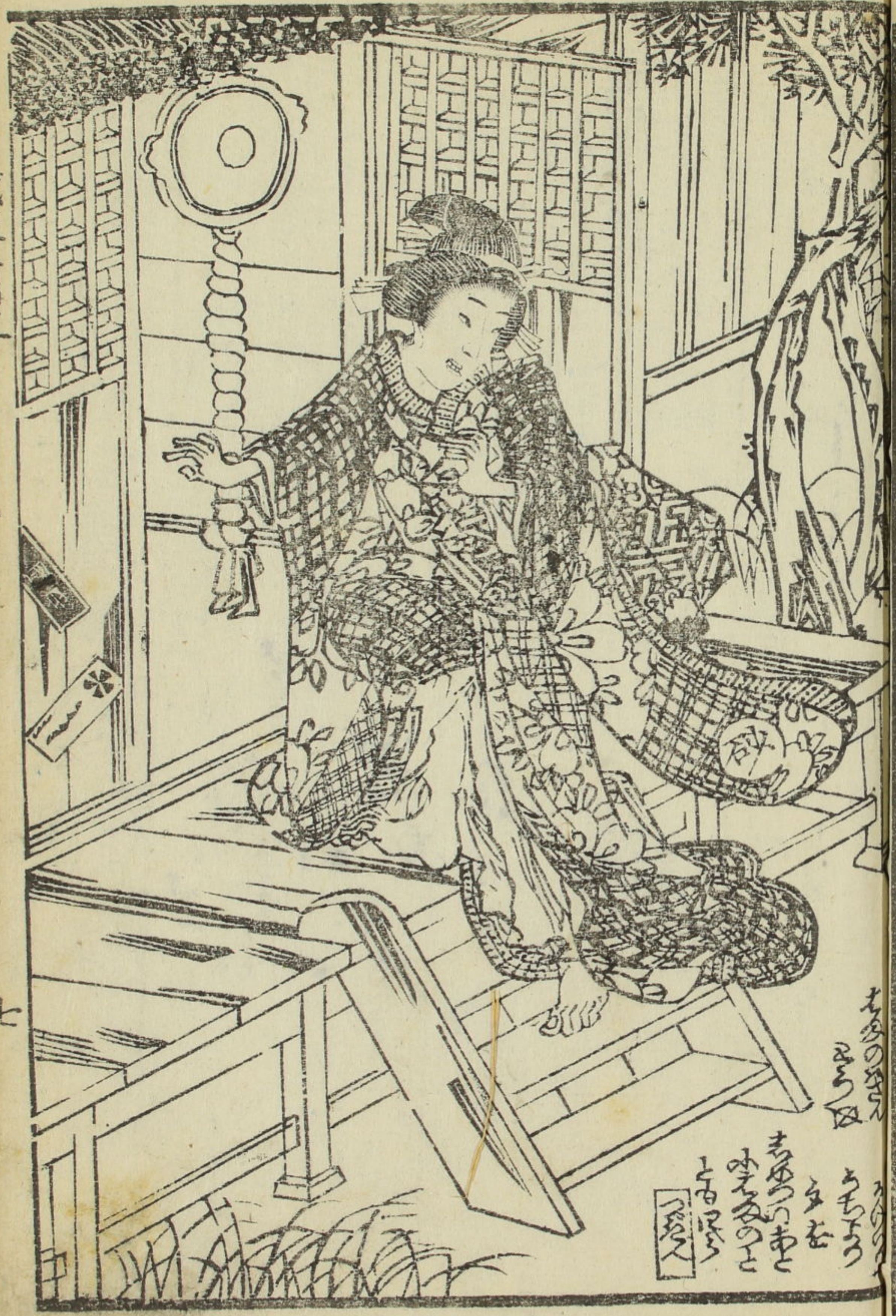


この世は浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり  
人の心も浮草の如きものなり

かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり  
かたはら浮草の如きものなり

半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり  
半丁木より浮草の如きものなり

ちもつち  
ちもつち  
ちもつち  
ちもつち  
ちもつち  
ちもつち  
ちもつち  
ちもつち  
ちもつち  
ちもつち







三人の...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

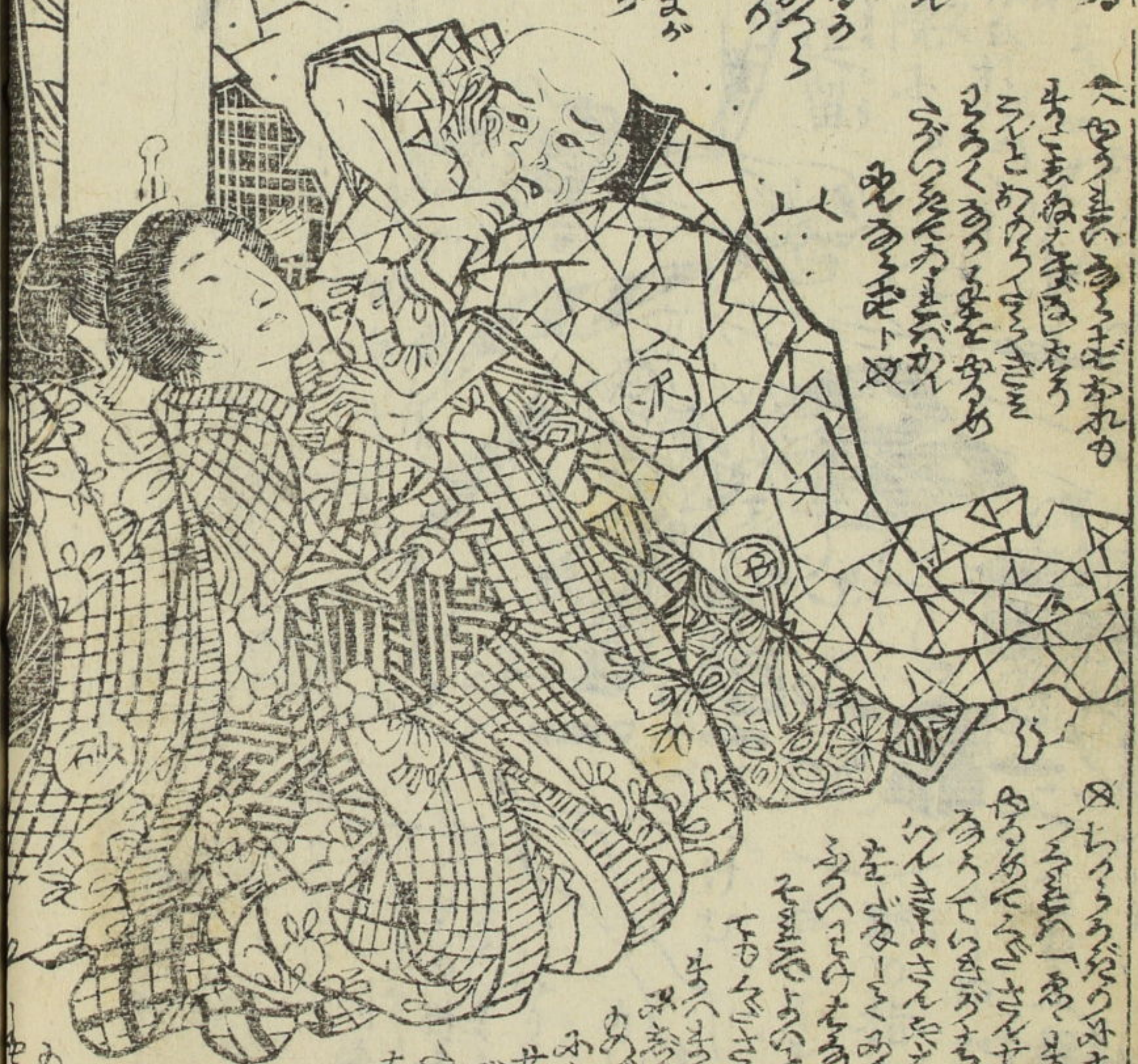
...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

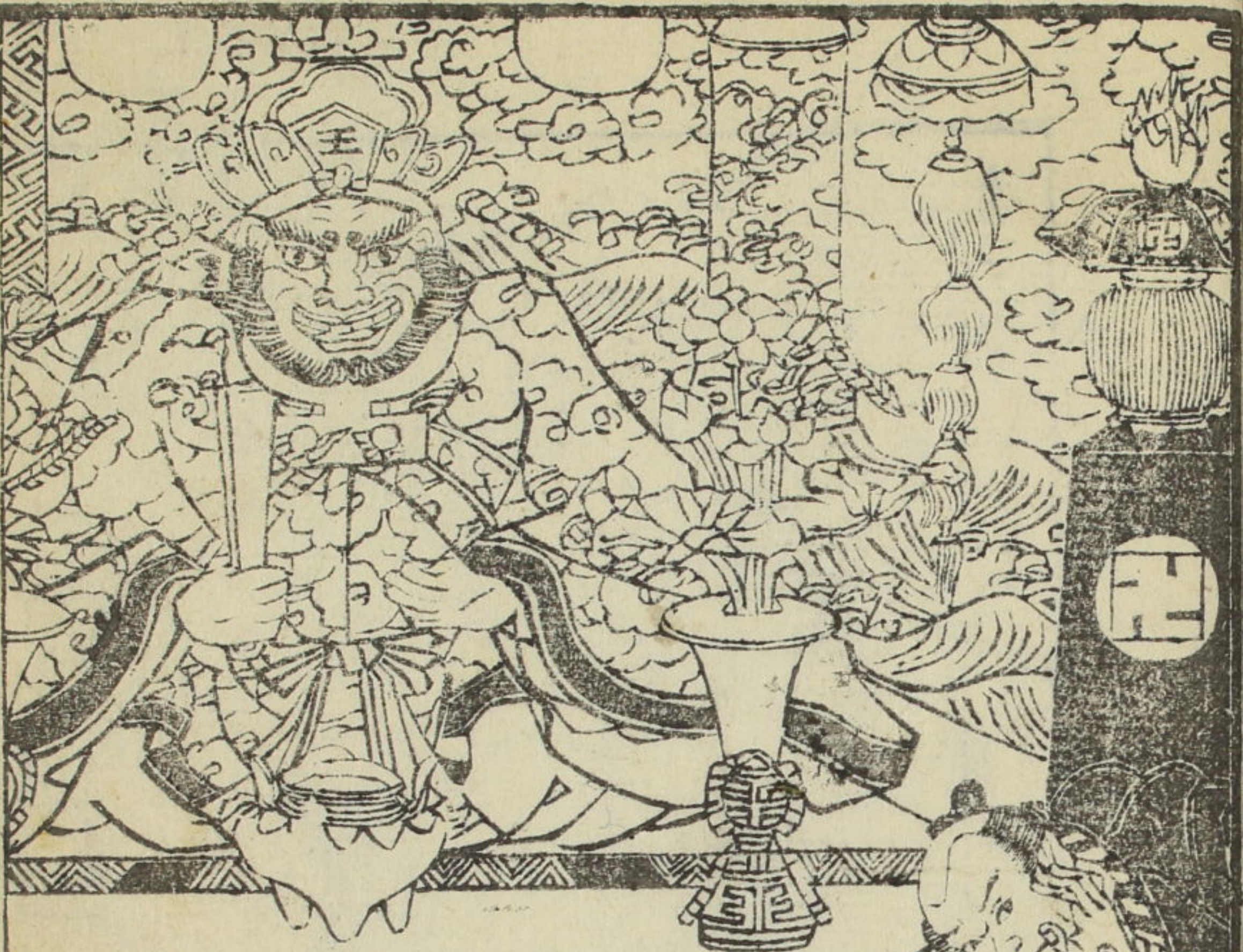
...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り



此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り

此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り



此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り  
此の御供養の儀には御座り  
御座り申す事なきに御座り



# 種考著 國貞画



此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き

此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き

此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き

此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き

此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き

此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き



此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き

此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き

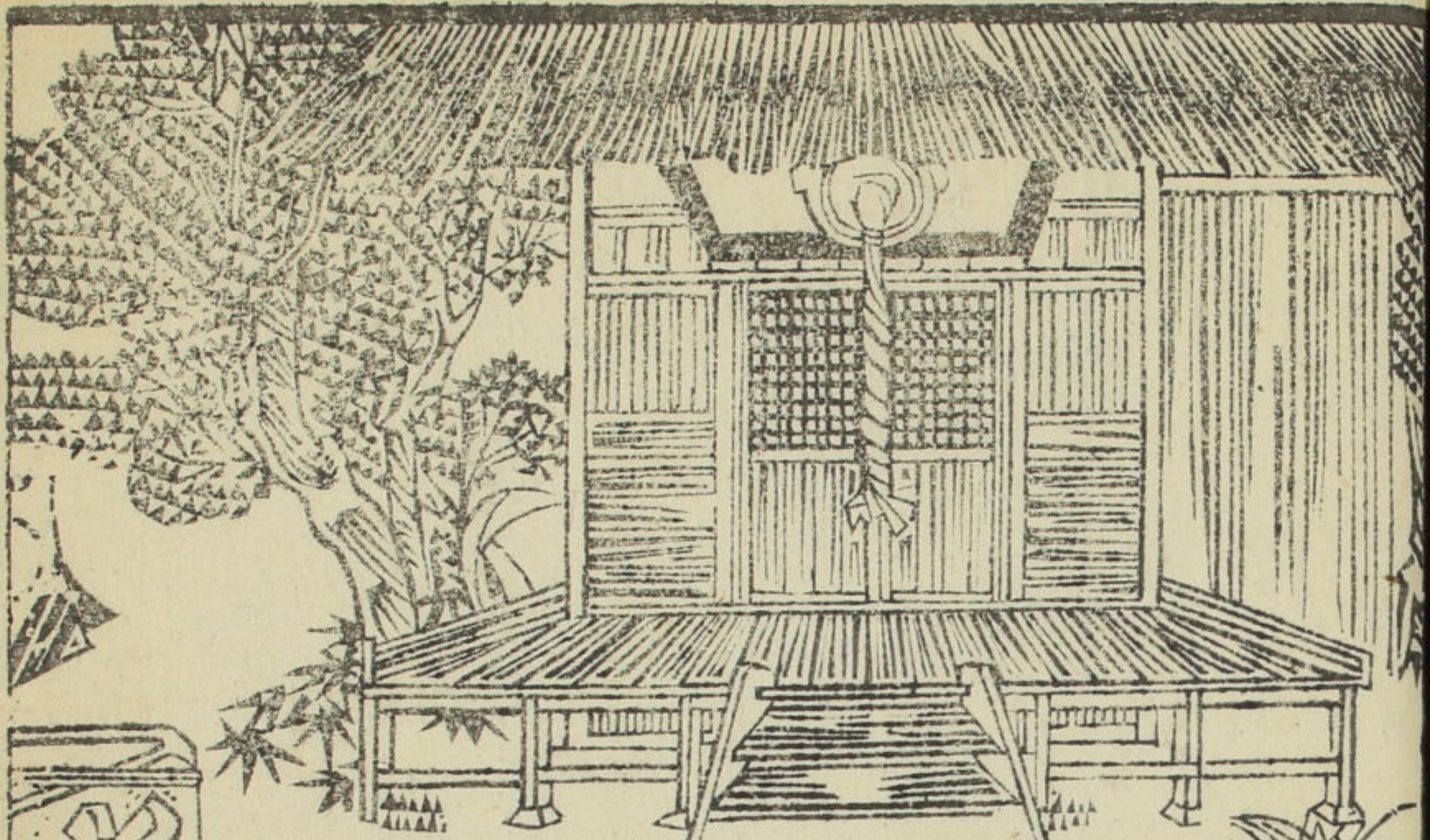
此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き  
 此の如き一帯一帯の如き

夫は... 妻は... 子供は... 山田... 田舎... 田舎...



山田... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

山田... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎...



山田... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎... 田舎...





月夜の  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



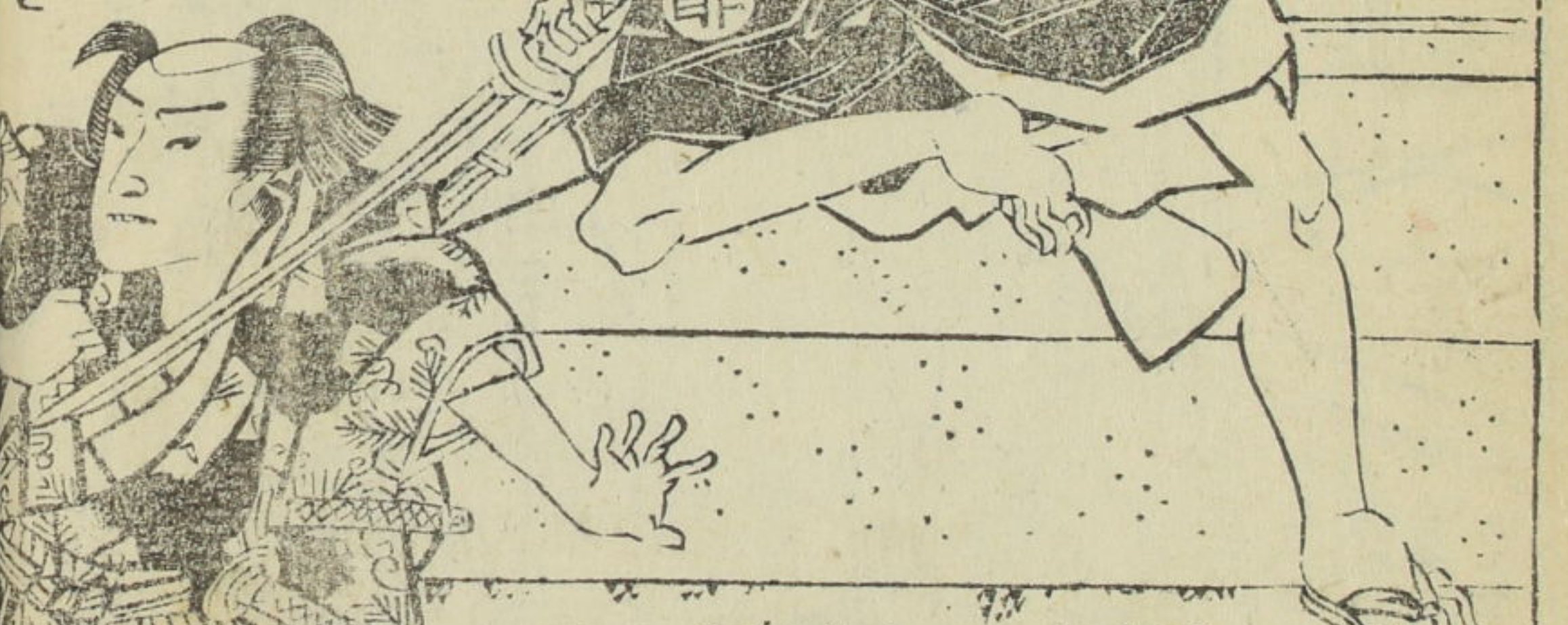
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

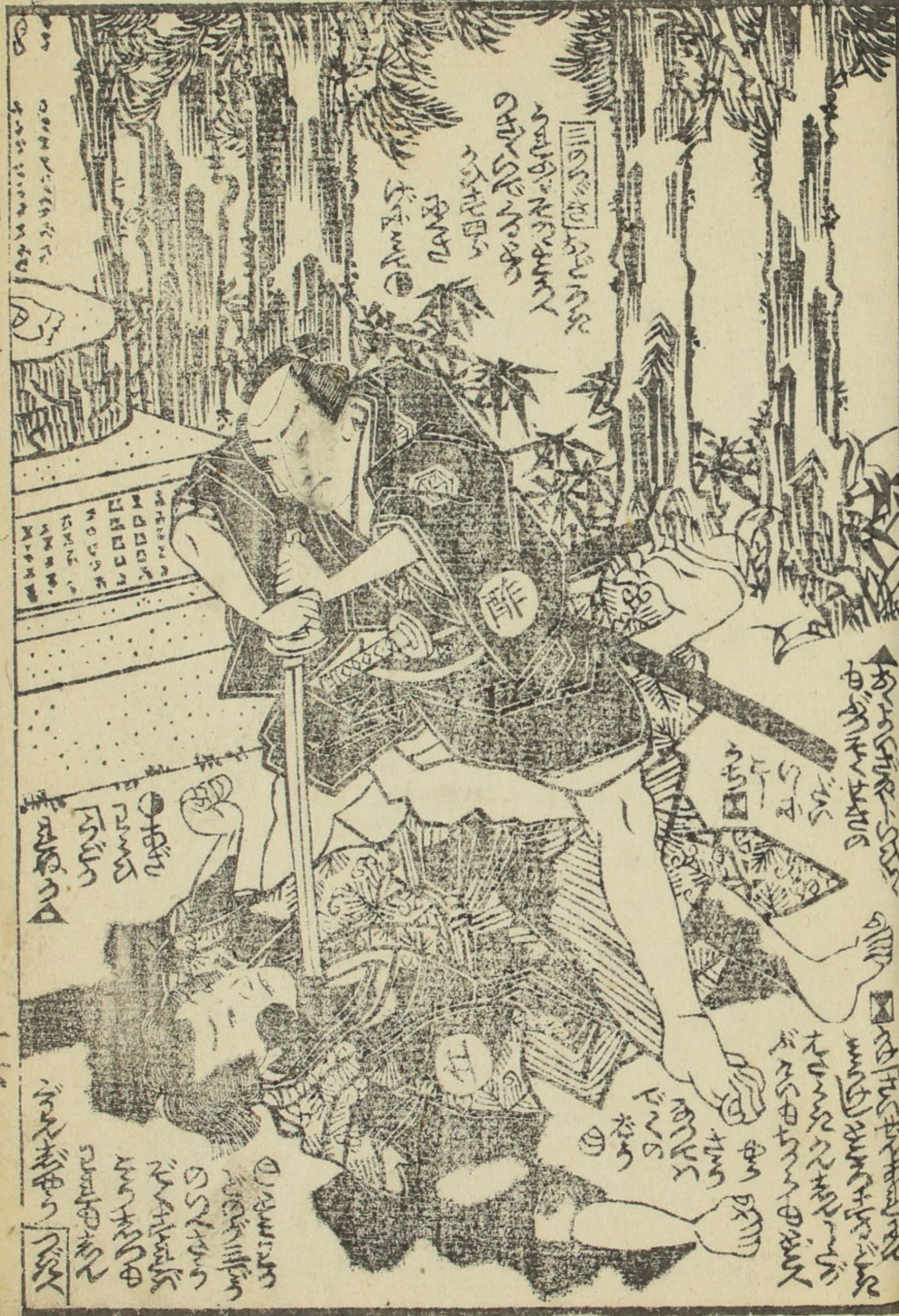


あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた





Handwritten annotations in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, are scattered throughout the illustration. Some text is written vertically, following the contours of the figures and the garden. Other text is written horizontally, providing context or commentary on the scene. The script is dense and difficult to decipher without a key.



Handwritten annotations in a cursive script are scattered throughout the illustration. The text is written in various orientations, some following the woman's form and others providing background information. The script is consistent with the one on the previous page, suggesting a continuous narrative or a related scene.

Vertical text on the right edge of the page, possibly a chapter or section title.

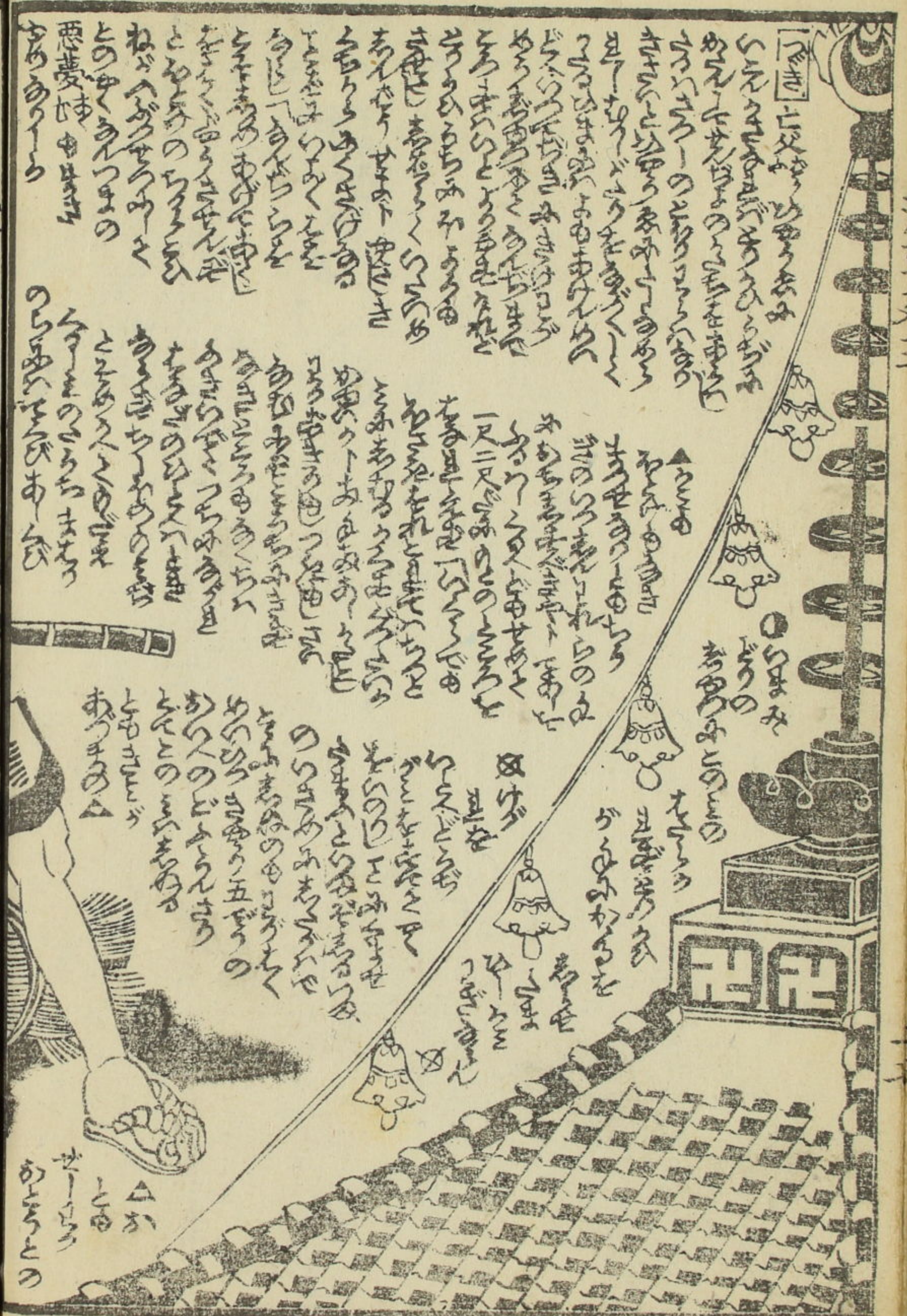
Vertical text on the right edge of the page, possibly a chapter or section title.





Vertical text on the left margin of the illustration page.

Small vertical text mark on the left margin.

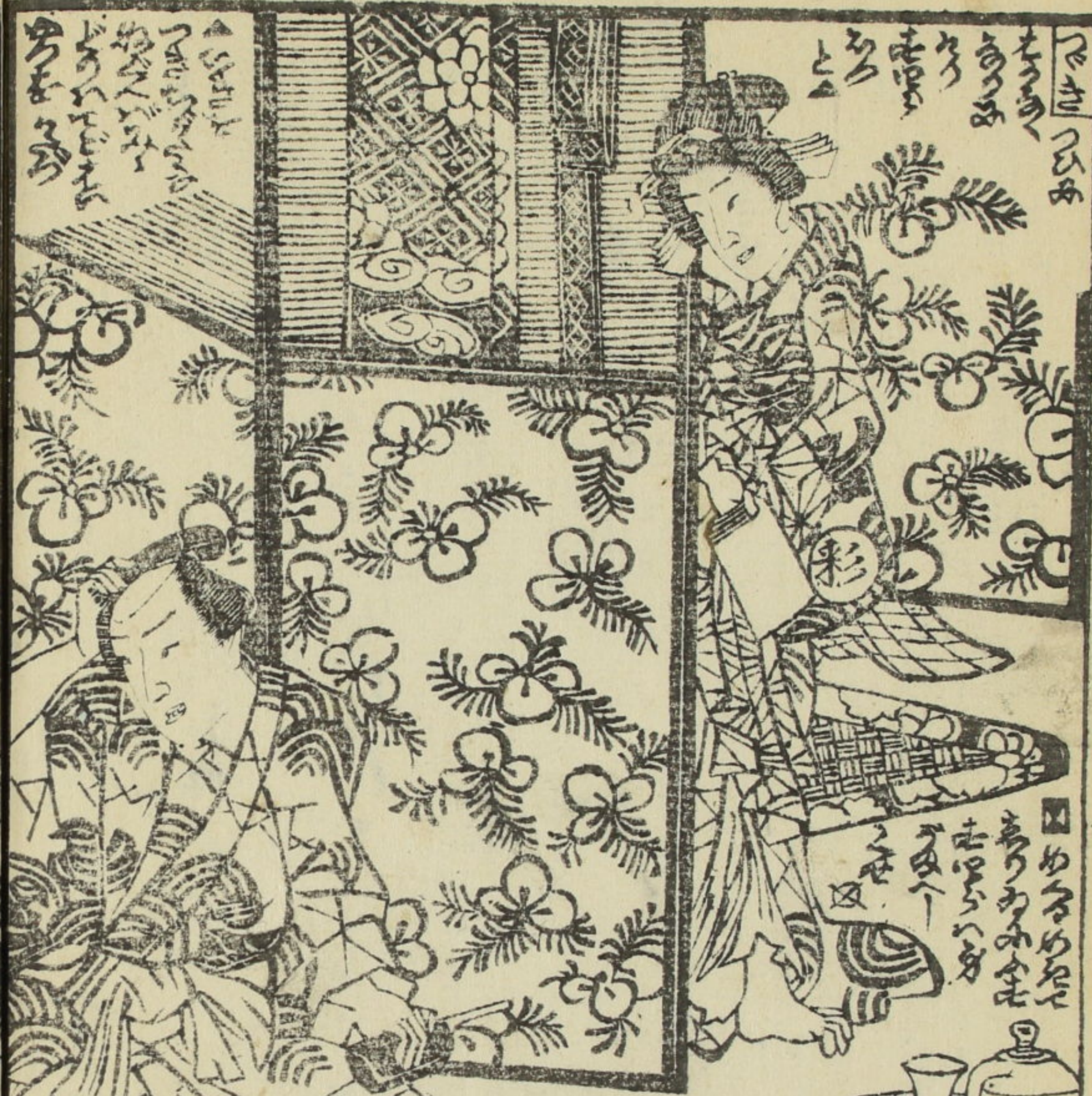


Vertical text on the right margin of the illustration page.

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, surrounding the illustration on the left page. The text is arranged in vertical columns, with some lines crossing the illustration's border.

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, surrounding the illustration on the right page. The text is arranged in vertical columns, with some lines crossing the illustration's border.

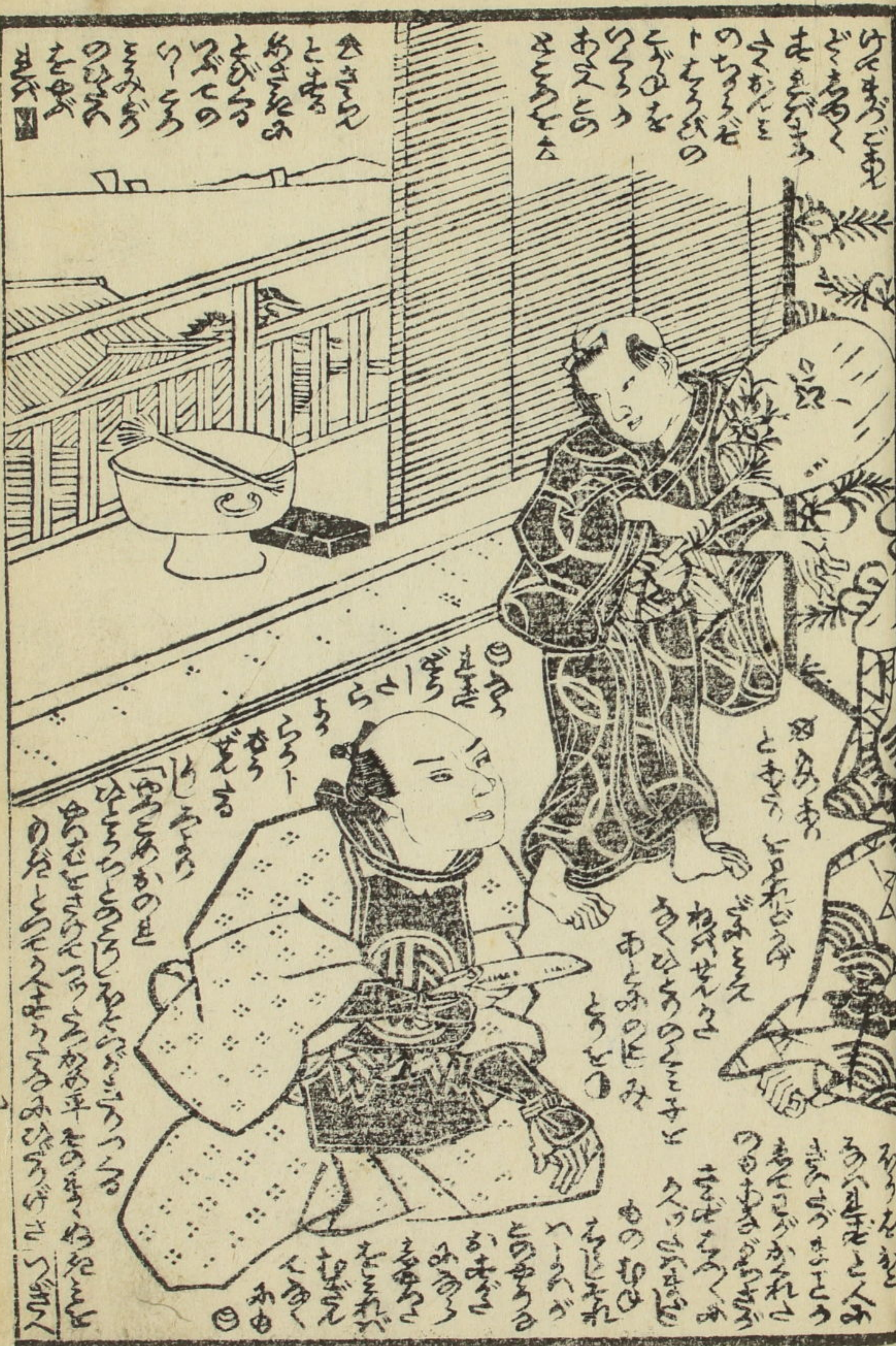
はまき  
あき  
うき  
とら



ゆり  
あき  
うき  
とら

ゆり  
あき  
うき  
とら  
ゆり  
あき  
うき  
とら

ゆり  
あき  
うき  
とら

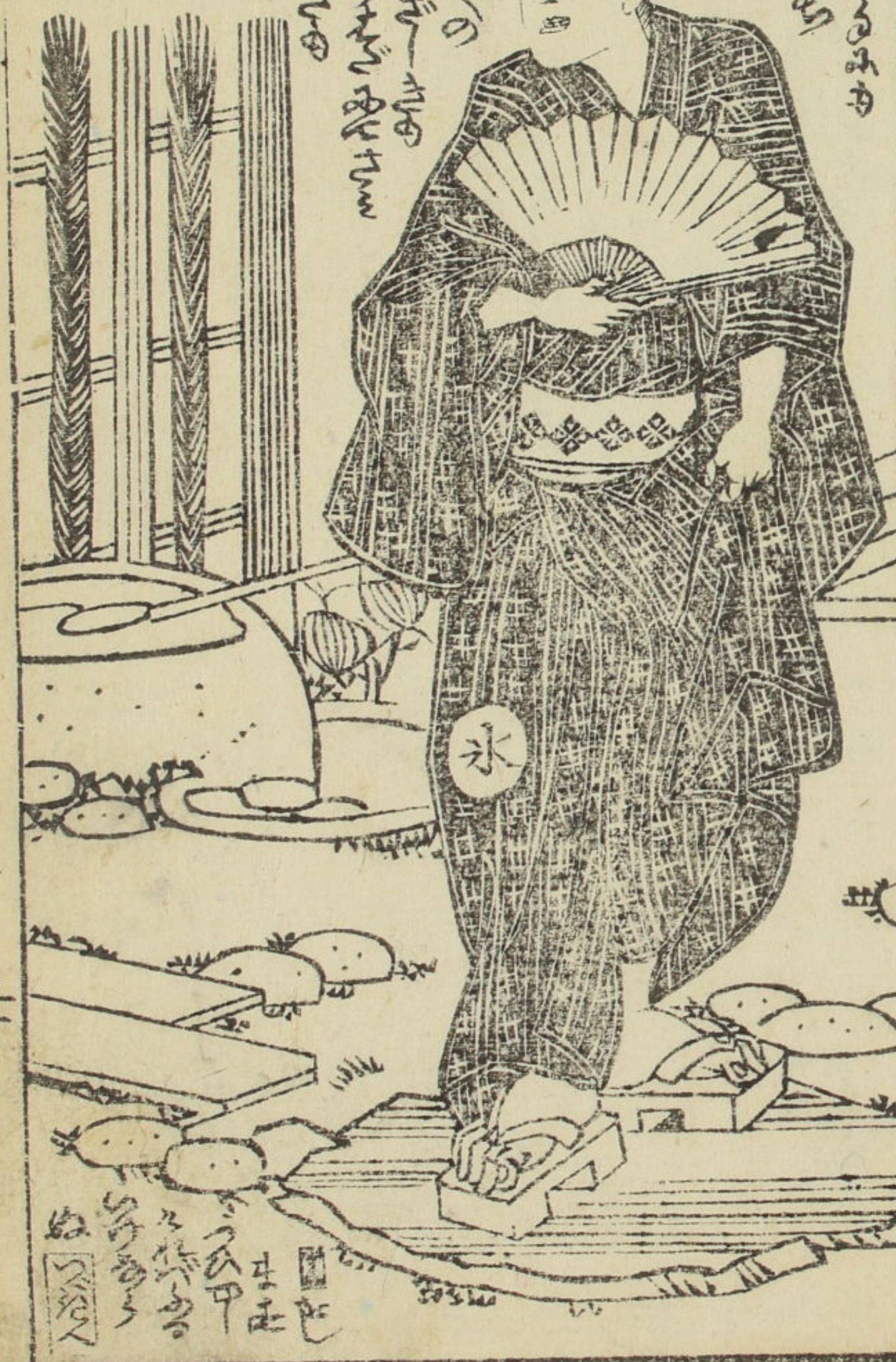


ゆり  
あき  
うき  
とら

ゆり  
あき  
うき  
とら

ゆり  
あき  
うき  
とら  
ゆり  
あき  
うき  
とら

Handwritten text in the upper left corner of the left page, likely a title or introductory text.

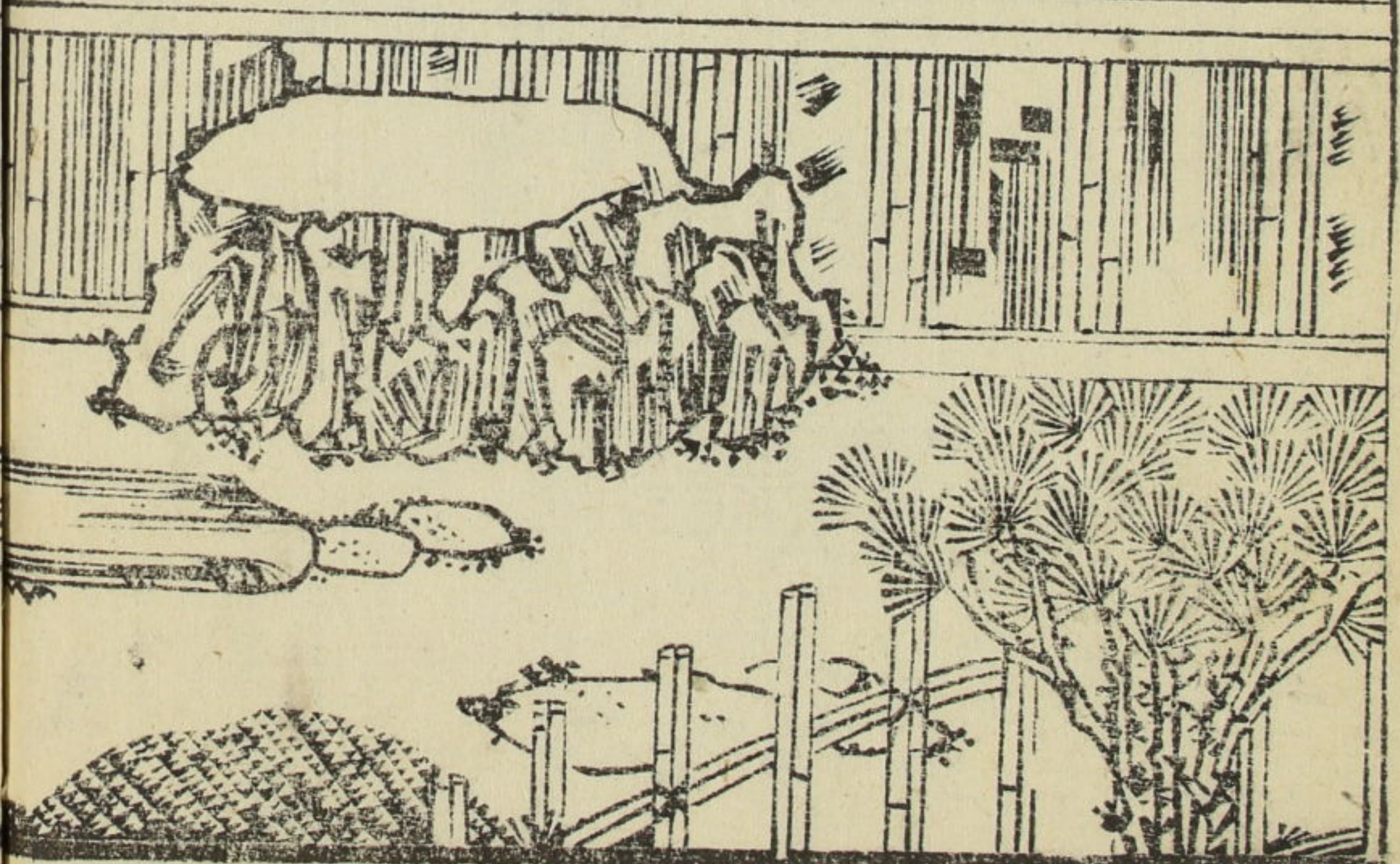


Vertical text on the far left edge of the page.

Small handwritten text at the bottom left of the page.

Handwritten text in the upper middle section of the left page.

Handwritten text in the upper right section of the left page.



Vertical text on the far right edge of the page.

大坂	前川源七郎	越後三條	青柳正兵衛
同 紀州和歌山	岡島真七	同 加茂	丸屋音八
阿州徳島	津田源兵衛	同 中條	番場吉次郎
遠州掛川	坂井萬吉	同 長岡	山口萬吉
同 二俣	三原屋甚藏	同 見附	竹屋利七
三州豊島	天井金藏	同 六日町	浅間屋長七
尾州名古屋	永樂屋東四郎	同 瀧町	嘉坪屋由右門
同 尾州名古屋	美濃屋代助	同 新瀨	目黒宗内
同 甲府山梨	中村重兵衛	同 新瀨	佐藤友吉
同 甲府山梨	内藤傳右門	同 新瀨	越中屋與八
同 同	五明堂正八	同 新瀨	平野屋謙造
同 同	小西屋庄左門	加州 金澤	近 八郎右門

柳亭種彦著 梅蝶樓國貞画



Various small handwritten notes and signatures at the bottom of the illustration, including the artist's name '梅蝶樓國貞画' and the author's name '柳亭種彦著'.

同	駿州靜岡	武川半七	同	水屋平八
同	今津美之助	同	同	抽水甚兵衛
同	大和屋利兵衛	同	同	岡本榮作
同	曾比屋平七	同	同	中村嘉兵衛
同	翁屋重兵衛	同	同	西村重兵衛
同	高梨與左門	同	同	齋藤八四郎
同	池田孝吉	同	同	近江屋周助
同	田澤多一郎	同	同	光白屋清次郎
同	近江屋平吉	同	同	都田誠
同	杉浦平左門	同	同	白根屋藤五郎
同	好文堂正平	同	同	島屋兼吉
同	高木直二郎	同	同	萬屋長五郎
同	北村甚左門	同	同	十一屋源助
同	羽前山形	同	同	

同	豆州三島	堺屋又三郎	同	高田為次郎
同	常州太田	會津屋茂兵衛	同	長谷川虎三郎
同	野州足利	山木屋金太郎	同	田宮五郎
同	中村宗兵衛	同	同	萬屋利七
同	今市	吉田屋長兵衛	同	本間金之助
同	上州前橋	橋本屋文次郎	同	角屋直治
同	伊勢崎	川木屋平吉	同	能登山五右門
同	高崎	菅原屋角二郎	同	佐々木長藏
同	富岡	開文堂文次郎	同	三陸屋利兵衛
同	沼田	塚田屋佐太郎	同	及川甚七
同	藤岡	松野屋貞吉	同	牟岐鉄五郎
同	伊香保	小林源二郎	同	壺屋養藏
同	信州長野	小井屋喜太郎	同	澤田正助
			同	盛岡

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上田								松本	松本	精草堂	藤松屋	高見屋	藤屋	同	飛驒高山	越後水原	同			
池田	鼠屋	葛屋	葛屋	榎屋	精草堂	藤松屋	高見屋	藤屋	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
政教	甲造	伴五郎	伴五郎	重兵衛	八十八	禎十郎	甚左門	機左門	作四郎	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八戸	仙臺	青森	青森	同	渡島	北海道	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌	札幌
石岡	渡邊	菊地	柿崎	菊地	魁文	佐々木	田村	田村	田村	田村	田村	田村	田村	田村	田村	田村	田村	田村	田村	田村
吉十郎	善七	正助	忠兵衛	儀三郎	文社	常吉	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛	善兵衛

一高橋阿傳夜又譚 八編大尾 一綾重衣紋廻春秋 三編大尾

一夜嵐阿鬼奴花仇夢 五編大尾 一晚鏡心の三侯 三編大尾

一國定忠次義名高嶋 五編大尾 一戀相場花王夜嵐 三編大尾

一名廣澤邊 三編出版 一白表紙往來物用文類字引類聚三番

一格蘭氏傳倭文賞 三編大尾 一切付代記真録武著其他二冊物數百番

一水錦隅田曙 三編大尾 一金花七變化 三編大尾

支地本門屋 金松堂 辻岡文助

東京日本橋區橫出町三丁目番地





